

Ⅱ 研究内容

1 道徳の教科化の背景

ある放課後の職員室で…（ベテランの先生と若い先生の会話の一コマ）

ベテラン教師「学習指導要領の改訂で、道徳が教科になるのは知っているかい。」

若手教師「新聞やニュースでも取り上げられるようになりましたね。教科になるってことは、教科書ができたり、指導する内容も以前よりはっきりしたりするんですよね。」

ベテラン教師「教科化することでどう変わってくるんだろうなあ。今までも大事に指導してきたんだけど。」

若手教師「私も教員になって経験は浅いですが、道徳の時間は大切に指導してきたので、教え方にあまり大きな変化はないんじゃないんですかね。」

二人 「そうなのかなあ。よくわかんない。うーん…。」

若手教師「そもそも、なんで教科にするのでしょうか？」

Q. 道徳の教科化が今、なぜ行われるのか？



A. 子どもたちの「生きる力」を育むことが喫緊の課題であり、その根幹を成す道徳教育の一層の充実が必要だから。

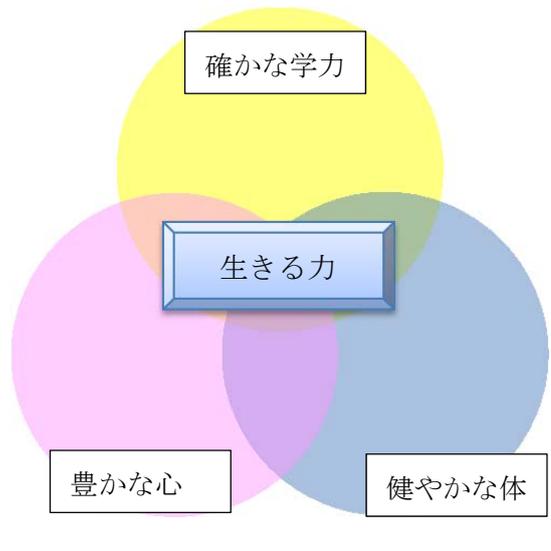
【日本の危機的な状況】

いじめ問題の深刻化，少子高齢化の進展，グローバル化の進展，雇用環境の変容，地域社会・家族の変容，格差の再生産・固定化

東日本大震災で顕在化

激しく変動する社会を生き抜く力の育成
国際社会で活躍する人材の育成

「知識基盤社会」において
「生きる力」の育成が
重要！



「生きる力」の育成には、あらゆる教育活動の根底にある道徳教育が重要だ。

今の道徳の時間は…

「読み物」を読んだり、テレビを観たりして感想を述べ合う授業。

「読み物」からある一定の価値観を読み取るべきだという、一方的・形式的な指導。

教科でもなく、教科書もないことから軽視されがちである。

「誰が、何を、何で」教えるのかが不明確！
道徳の時間の指導方法の工夫・改善が不十分！

道徳を「特別の教科」に位置付けよう！

Q. 道徳の教科化で、問題点はどう改善されるのか？

A. 以下のようになります。

「誰が、何を、何で」教えるのが不明確！

誰が？

すべての教職員の協力の下、基本は「学級担任」

⇒「コラム 指導体制の工夫」

何を？

- A 主として自分自身に関する事
- B 主として人との関わりに関する事
- C 主として集団や社会との関わりに関する事
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

⇒「2 道徳教育の目標・道徳科の目標（3）内容項目」

何で？

検定教科書

評価は？

数値での評価はなじまない

⇒「4 授業づくり（1）学習指導案」詳細については、2年次目以降に提案

指導方法の工夫・改善が不十分！

一方的な指導，形式的な指導

○内容項目の改善

・発達段階を踏まえて体系的なものへの転換

○問題解決的な学習，体験的な学習の導入

○地域人材や専門家との連携の重視

「考える」道徳，「議論する」道徳